

伝統大工の育成目指す

技能評価制度も導入

信州職人学校

長野県建設労働組合連合会(松本市)は技能の継承、建築技能者の地位向上や待遇改善、伝統技能を生かした家づく

りの推進等を目的に、2009年6月から信州職人学校・伝統大工コースを開講している。

同会は県内19組合で1万8600人の建設業従事者が加入している。近年は集成材やプレカット加工の普及に

より、技能不在の家づも下がっており、職人くろりが一般化し、現状としてのプライドが持てず、良い腕の職人がなくなっている。同時に年々少なくなっている。技能者の高齢化が大工技能者ではなく、現場労働者として扱われ、進むなか、技術の継承はいつまでたかればでき



伝統構法の継承を目指す訓練生

ないことから、同会が1月計25日)、応用コース(同)がある。基礎、応用各コースの場だ。

信州職人学校は中堅大工(実務経験が3年以上の組合員)を対象に、技能をきちんと評価する認定制度を設けているのが特徴だ。合格者には信州伝統大工1級、2級を交付して13年度(6月入校・第3期生)は15人程度が修了したが、1級を募集している。職人が合格者10人、2級合格者9人(重複合格者も15人)と難関な試験として知られている。これを業界共通の社会的評価としていくことも課題の一つとなっている。

カリキュラムは、入門講座(座学中心、計7日27時間)、基礎コース(座学+実技、6

月計25日)、応用コース(同)がある。基礎、応用各コースの場だ。信州職人学校は中堅大工(実務経験が3年以上の組合員)を対象に、技能をきちんと評価する認定制度を設けているのが特徴だ。合格者には信州伝統大工1級、2級を交付して13年度(6月入校・第3期生)は15人程度が修了したが、1級を募集している。職人が合格者10人、2級合格者9人(重複合格者も15人)と難関な試験として知られている。これを業界共通の社会的評価としていくことも課題の一つとなっている。カリキュラムは、入門講座(座学中心、計7日27時間)、基礎コース(座学+実技、6